

平成 19 年 4 月 5 日

各 位

国立大学法人東北大学

「井上プラン 2007」の概要について

国立大学法人東北大学（総長 井上明久）は、2007 年度を初年度とするアクションプランの検討を進めておりましたが、このほど「井上プラン 2007 ～世界リーディング・ユニバーシティに向けて～」をとりまとめましたので、発表いたします。このプランは人類社会への貢献という揺るぎなき姿勢をもって、東北大学が 10 年後に総合評価で「世界トップ 30 位以内」に入る「世界リーディング・ユニバーシティ」を目指した戦略実行プランを打ち出したものです。

具体的なプランの概要は以下のとおりです。

1. 東北大学独自の教育カリキュラム改革

- ・学部学生を対象とする「海外インターンシップ制度」の実施
- ・教養教育の再構築のための「特務教授制」の導入
- ・欧米の有力な大学院と競える「国際高等研究教育院」による創造的総合知の探究

【説明】東北大学は『知の継承体』として、築き上げてきた知を教授する教育システムの再構築を図り、『知の創造体』を担う高度な教養、専門的な知識及び国際的な視野を備えた指導的人材を多数輩出します。

その具体的プランとして、専門に入る前の若い学生が世界に目を向けて海外経験を積むことのできる海外インターンシップ制度の実施、世界的研究を発信した特務教授（定年退職したシニア教授）による研究の神髄を伝承する教養講義の開講、大学院生が履修できる教養教育カリキュラムの設置など、教育カリキュラムの改革を進めていきます。また、東北大学は欧米の大学院と競い合えるスーパー大学院として、平成 18 年 4 月、世界に先駆けて設置した全学的連携による異分野融合型大学院教育支援組織である国際高等研究教育院の着実な展開を図ります。

2. 最先端の研究体制の構築と世界トップレベルの研究成果の創出

- ・国際高等研究教育院と国際高等融合領域研究所による「国際高等研究教育機構」の設立
- ・人類社会が直面している諸課題にこたえる戦略的研究拠点の形成推進
- ・長期的視野に立脚した基盤研究の充実

【説明】東北大学は『知の創造体』として、戦略的独創研究と長期的視野に立つ基盤研究推進のために本学独自の最先端の研究体制の構築を図り、世界トップレベルの研究成果を創出します。

その具体的プランとして、東北大学は大学院教育を行う国際高等研究教育院に引き続き、その出口として若手の博士研究員（ポスドク）が独創的研究に従事する国際高等融合領域研究所を設置します（平成 19 年 4 月）。そしてその両者を合わせた世界に類をみない異分野融合による新たな学問分野の創造に取り組んでいきます。また、社会が求める数々の戦略的研究課題への取組を一層強化し、世界的な研究拠点の形成を推進します。さらに、最先端の分野だけではなく、長期的視野に立った基盤研究にも力を入れていきます。

3. 実践的な学術研究拠点の形成

- ・産学官連携事業等を通じた新実業の創出の先導
- ・企業等の学外団体との連携による「寄附講義」の開講

【説明】東北大学は「世界と地域に開かれた大学」として、その人的・知的リソースを広く社会に還元して、人類社会の発展に貢献します。

その具体的プランとして、産学官連携事業等を通じて、研究から生まれた成果を社会に還元すること、及び大学で得た知見や発想に基づき自ら起業（ベンチャー）を成し遂げるための支援を通じ、産業の活性化や実業の創出に取り組んでいきます。また、産学連携を重視したフェロー会員制（東北大学の教育研究を応援する会費制会員）の導入を検討します。さらに、実社会との連携を深めるため、先端の実務を学び、本学の知との融合を目的とした企業等の学外団体との連携による講義（寄附講義）を開講します。

4. 世界に開かれた国際水準キャンパスの構築

- ・青葉山新キャンパスの整備 —— 国際キャンパスモデル化
- ・地域防災拠点としてのキャンパスづくり —— 宮城県沖地震対策の強化

【説明】東北大学は『知の創造体』、『知の継承体』として展開する多様な教育研究活動を支える国際水準のキャンパス環境を整備します。

その具体的プランとして、青葉山新キャンパスについては、できるだけ早期に環境アセスメントを終えて造成工事に入るなどその整備を進め、その具体的計画としては、世界トップ性能の実験装置群、世界トップレベルの融合的分野の研究集団、ユニバーシティハウス、ゲストハウス、インターナショナルスクールなどの要素のほか、英語を共通語とする「国際キャンパス特区（仮称）」の設置について検討します。また、特に宮城県沖地震の発生確率は高い水準で予測されており、「東北大学地震対策基盤プロジェクト」を設置して、地域防災拠点としてのキャンパスづくりに努めるとともに、世界レベルの地震対策を社会に発信します。

5. 世界リーディング・ユニバーシティを支える経営基盤の確立

- ・内外に開かれた知の経営体としての機能強化
- ・国際競争力を支える「東北大学式人事システム」の構築

【説明】東北大学は『知の経営体』へと変革し、本学を取り巻く環境の変化や時代の要請に対応できる財政基盤をはじめとする経営基盤を確立します。

その具体的プランとして、大学運営システムの機能強化を図るため、理事・副学長体制の簡素化、理事・副学長・部局長の達成目標（ミッション・ステートメント）を明示した評価の導入を図ります。また、厳しい財政状況に対応する財務戦略・予算編成・教職員人員計画を作成するほか、「東北大学基金」の創設、総長の戦略的な経費配分の仕組みの整備などを進めます。さらに、国際水準の教職員にふさわしい東北大学式人事システムの構築を図ります。先行措置として、教授のキャリアパスの中に、「フェロー教授」（各分野において先導的役割を担う教授）、「ユニバーシティ・プロフェッサー」（世界トップレベルで国際的影響力のある教授）を整備します。

(以 上)

[上記についてのお問い合わせ先]

国立大学法人東北大学総長室 経営企画スタッフ（大川俊治・今野一幸）

TEL 022-217-5006・5007（直通） FAX 022-217-4856